

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担）研究報告書

高齢者がん診療指針策定に必要な基盤整備に関する研究

研究分担者 辻 哲也 慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室 教授

研究要旨

高齢者がん診療ガイドライン策定に必要な基盤整備をするにあたって、高齢がん患者における、がんのリハビリテーション診療のあり方（正しい知識の普及・人材育成・提供体制の整備・研究の促進）を検討することを目的とし、モデル事業として開始された「プレフレイル高齢大腸がん患者のための臨床的提言（PCO）」においては、支持・緩和医療ワーキンググループに所属し、リハビリテーションのセクションを担当、策定作業を実施した。

さらに、厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）がんリハビリテーションの均てん化に資する効果的な研修プログラムの策定のための研究（研究代表：辻哲也）においては、グループワークを実施し提言をまとめた。日本がんリハビリテーション研究会においては、がんのリハビリテーション診療ガイドライン第2版（2019年6月刊行）に準拠した医療者向けの実践本である「がんのリハビリテーション診療ベストプラクティス 第2版」を2020年11月に刊行、その中で、「高齢がん患者の評価、どんな方法で行うのか？」を掲載し、高齢がん患者のリハビリテーション診療の知識向上の一環とした。

A. 研究目的

高齢者がん診療ガイドライン策定に必要な基盤整備をするにあたって、高齢がん患者における、がんのリハビリテーション診療のあり方（正しい知識の普及・人材育成・提供体制の整備・研究の促進）を検討することを目的とした。

WGメンバーに就任し、高齢者がん医療に携わる多方面の専門家から構成される委員との意見交換を行った。

- モデル事業として開始された「プレフレイル高齢大腸がん患者のための臨床的提言（PCO）」においては、支持・緩和医療ワーキンググループに所属し、リハビリテーションのセクションを担当、策定作業を実施、成果物は論文として大腸肛門学会誌に投稿中である。

B. 研究方法

診療ガイドライン策定にあたって、モデル事業として開始された「プレフレイル高齢大腸がん患者のための臨床的提言（PCO）」において、支持・緩和医療ワーキンググループに所属、リハビリテーションのセクションを担当、策定作業実施した。

| | |
|------|--|
| CQ 2 | プレフレイルな高齢大腸癌患者に対して、オキザリプラチン含む抗がん薬を施行する（している）場合、配慮すべきことは何か？ |
| A 2 | オキザリプラチンによる末梢神経障害は発症後の有効な対処法として推奨されるものがないため、身体機能の客観的評価を経時的に行い、重篤化する前から身体機能の維持・向上による転倒リスク低減を行う。 |

C. 研究結果

- 複数の会議への参加を通して、がん医療やがんリハビリテーションに携わる有識者の意見を聴くことで、診療ガイドライン策定を行う上での重要な知見を得た。

WG全員： 構想、最終承認

辻、華井、石黒：情報収集、分析、解析、草稿作成、批判的修正

1) 班会議（1月16日）への参加

がん医療に携わる多方面の専門家から構成される班員との意見交換を行い、がんリハビリテーション医学・医療の専門の立場から発言を行い、コンセンサスを得た。

2) 高齢者がんを考える会議4（11月28日）への参加

高齢者医療全般に携わる多方面の専門家との意見交換を行った。

3) WG 合同症例検討会（6月19日）への参加

- 厚労省研（がん対策推進総合事業）がんリハビリテーションの均てん化に資する効果的な研修プログラムの策定のための研究（研究代表：辻哲也）においては、2020年度にがん医療に携わる多方面の専門家が参加し、2回の意見交換会を実施、その中で、高齢がん患者のリハビリテーシ

ョン診療のあり方についても議論を行った。その成果を、「がんのリハビリテーション医学・医療のあり方」として提言をまとめた。

- 日本がんリハビリテーション研究会においては、がんのリハビリテーション診療ガイドライン第2版（2019年6月刊行）に準拠した医療者向けの実践本である「がんのリハビリテーション診療ベストプラクティス 第2版」を2020年11月に刊行、その中で、「高齢がん患者の評価、どんな方法で行うのか？」を掲載し、高齢がん患者のリハビリテーション診療の知識向上の一環とした。

D. 考察

高齢者がん診療指針策定に必要な情報と解析が行われ、がん治療は可能だが標準的な治療は困難なprefrailが多数おり、そのマネジメントにおいては、リハビリテーションアプローチが重要であることが分かった。

その課題克服に向けて、診療ガイドライン作成委員会において、がんリハビリテーションの観点から、議論をさらに進めていくことが適切であると考えられた。

E. 結論

エビデンスの少ない高齢者のがん診療において診療ガイドラインを作成していくには、様々な調査、Q&A集の作成およびモデル事業における臨床的提言を公開することにより、その方向性を明らかにしていく必要がある。

その一環として、今回、大腸がんを対象とした臨床的提言を作成し、高齢者のがん診療におけるリハビリテーションアプローチの重要性を明らかにした。

引き続き、診療ガイドライン策定に至るプロセスの中で、がんのリハビリテーション診療の意義・役割や効果、具体的な取り組みの内容を反映させていくことが必要とされる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Nakayama N, Tsuji T, Aoyama M, Fujino T, Liu M. Quality of life and the prevalence of urinary incontinence after surgical treatment for gynecologic cancer: a questionnaire survey. BMC Womens Health. 2020 Jul 17;20(1):148. doi: 10.1186/s12905-020-01012-7.
- 2) Hasegawa T, Sekine R, Akechi T, Osaga S, Tsuji T, Okuyama T, Sakurai H, Masukawa K, Aoyama M, Morita T, Kizawa Y, Tsuneto S, Shima Y,

Miyashita M. Rehabilitation for Cancer Patients in Inpatient Hospices/Palliative Care Units and Achievement of a Good Death: Analyses of Combined Data From Nationwide Surveys Among Bereaved Family Members. J Pain Symptom Manage. 2020 Dec;60(6):1163-1169.

doi: 10.1016/j.jpainsymman.2020.06.031.

- 3) Morishita S, Nakano J, Fu JB, Tsuji T. Physical exercise is safe and feasible in thrombocytopenic patients with hematologic malignancies: a narrative review. Hematology. 2020 Dec;25(1):95-100.

doi: 10.1080/16078454.2020.1730556.

- 4) Mayanagi S, Ishikawa A, Matsui K, Matsuda S, Irino T, Nakamura R, Fukuda K, Wada N, Kawakubo H, Hijikata N, Ando M, Tsuji T, Kitagawa Y. Association of preoperative sarcopenia with postoperative dysphagia in patients with thoracic esophageal cancer. Dis Esophagus. 2020 Dec 12:doaa121.

doi: 10.1093/dote/doaa121.

- 5) Akezaki Y, Nakata E, Tominaga R, Iwata O, Kawakami J, Tsuji T, Ueno T, Yamashita M, Sugihara S. Short-Term Impact of Video-Assisted Thoracoscopic Surgery on Lung Function, Physical Function, and Quality of Life. Healthcare (Basel). 2021 Feb 1;9(2):136. doi: 10.3390/healthcare9020136.

- 6) Kikuuchi M, Akezaki Y, Nakata E, Yamashita N, Tominaga R, Kurokawa H, Hamada M, Aogi K, Ohsumi S, Tsuji T, Sugihara S. Risk factors of impairment of shoulder function after axillary dissection for breast cancer. Support Care Cancer. 2021 Feb;29(2):771-778.

doi: 10.1007/s00520-020-05533-7.

- 7) 添田遼, 三橋麻菜, 岡野清音, 横澤愛子, 奥津輝男, 辻哲也: 終末期がん患者の死亡前6週間の日常生活動作の経時的変化. Palliative Care Research 2020;15(3):167-174.

- 8) 辻哲也: 緩和ケア主体の時期のがんリハビリテーション診療. Jpn J Rehabil Med 2020;57(9):828-835.

2. 学会発表

- 1) Tsuji T. The Front Line of Cancer Rehabilitation in Japan: Current status and Future Issues. 招待講演. 7th Asia-Oceanian Conference of Physical & Rehabilitation Medicine (AOCPRM2020). 2020年7月17日 Web開催 (ライブ).
- 2) 辻哲也. 心リハチームに必要な“がんリハ”の基礎知識. シンポジウム 腫瘍循環器疾患の拡がり Cardio-Oncology Rehabilitation (CORE). 第256回日本循環器学会関東甲信越支部地方会. 2020年7月20日~26日 Web開催 (ライブ).

- 3) 辻哲也. がん患者のリハビリテーション. 講義. 認定看護師教育課程 専門科目 緩和ケア分野 がん看護学総論. 2020年7月29日 Web開催 (ライブ).
- 4) 辻哲也. がん疼痛緩和のためのリハビリテーション. 講義. 認定看護師教育課程 専門科目 緩和ケア分野 がん疼痛のマネジメント. 2020年7月29日 Web開催 (ライブ).
- 5) 辻哲也. 心リハチームに必要な“がんリハ”の基礎知識. シンポジウム 腫瘍循環器疾患の拡がり Cardio-Oncology Rehabilitation (CORE). 日本循環器学会. 2020年7月31日 Web開催 (ライブ).
- 6) 辻哲也. がん悪液質におけるリハビリテーション診療の役割. 講演. 日本がんサポーターズケア学会. 2020年8月10日 Web開催 (ライブ).
- 7) 辻哲也. がんのリハビリテーション診療 エビデンス&プラクティス-放射線・化学療法中・後の対応を中心に-. 特別講演. 第57回日本リハビリテーション医学会学術集会. 2020年8月20日 国立京都国際会館 京都府京都市.
- 8) 辻哲也. がんトリハビリ. 講演. ONCOLO Meets Cancer Experts (OMCE) セミナー. 2020年10月-11月 Web開催 (オンデマンド).
- 9) 辻哲也. 知っておきたい がんサバイバーの在宅での運動療法. 講演. 第11回城西緩和ケア講演会. 2020年11月12日 Web開催 (ライブ).
- 10) 辻哲也. がんを含めた緩和医療におけるリハビリテーション医学・医療の関わり. 教育講演. 第4回日本リハビリテーション医学会秋季学術大会. 2020年11月21日 神戸国際会議場 兵庫県神戸市 (ライブ).
- 11) 辻哲也. がんのリハビリテーション診療. 講演. 日本リハビリテーション医学会 認定臨床医 資格取得講習会. 2020年11月22日 Web開催 (オンデマンド).
- 12) 辻哲也. 高齢がん患者に対するリハビリテーション診療～エビデンスとプラクティス. 講演. 慶應義塾大学がんプロフェッショナルセミナー がんサバイバーのQOL向上を目指してーライフステージに応じたアプローチ. 2020年12月19日 Web開催 (ライブ).
- 13) 辻哲也. After Cancer～聞かせて！みんなの「がん、その後」～. 講演. CancerX World Cancer Week 2021. 2021年2月1日 Web開催 (ライブ).
- 14) 辻哲也. がんリハビリテーションの現状と課題～総論から最前線まで～. 講演. 山梨県がんをもつ方のリハビリテーション公開講座. 2021年2月13日 Web開催 (ライブ).
- 15) 辻哲也. がんのリハビリテーション. 講演. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会PAP企画. 2021年2月19日 Web開催 (ライブ).
- 16) 辻哲也. がんのリハビリテーション診療最前線. 講演. 第43回宮崎リハビリテーション研究会. 2021年2月27日 Web開催 (ライブ).
- 17) 辻哲也. がんのリハビリテーション診療～その人らしさを大切に～. 講演. 信州大学医学部附属病院 緩和ケアセンター 市民公開講座. 2021年3月4日 Web開催 (ライブ).
- 18) Tsuji T. The role and status of rehabilitation for supportive care in Japan. 招待講演. 7th Annual Conference of Korean Society of Cancer Rehabilitation. 2021年3月20日 Web開催 (ライブ).

3. 書籍

- 1) 辻哲也・他: がんのリハビリテーション診療ベストプラクティス 第2版. 日本がんリハビリテーション研究会 (編). 2020年11月. 金原出版. 全300ページ.
- 2) 辻哲也: がんリハビリテーション. 看護学テキストNiCEがん看護 様々な発達段階・治療経過にあるがん患者を支える. 鈴木久美, 林直子, 佐藤まゆみ. 2021年1月. 南江堂. 48-51.

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし